

安定的なガザミ漁業を目指して —抱卵ガザミ保護活動の取り組み—

恒見漁業協同組合青壮年部
池内 賢二

1. 地域の概要

私が生活の場としている福岡県豊前海は、瀬戸内海の西端に位置し、広大な干潟と遠浅な海が特徴であるため、ガザミを始めとする甲殻類の絶好の生育場となっている（図1）。

現在、豊前海では小型底曳き網・小型定置網・刺網漁業などが盛んに行われているが、いずれも甲殻類への依存は極めて高くなっている。

2. 漁業の概要

私の所属する恒見漁協は、豊前海の北部、北九州市にあり、正組合員は64名と中堅規模の組合である。

目前には新北九州空港内側の静穏域が広がり、そこで組合員は「豊前海一粒かき」の養殖をしたり、小型定置網や刺網などで四季折々の魚介類を水揚げしている。

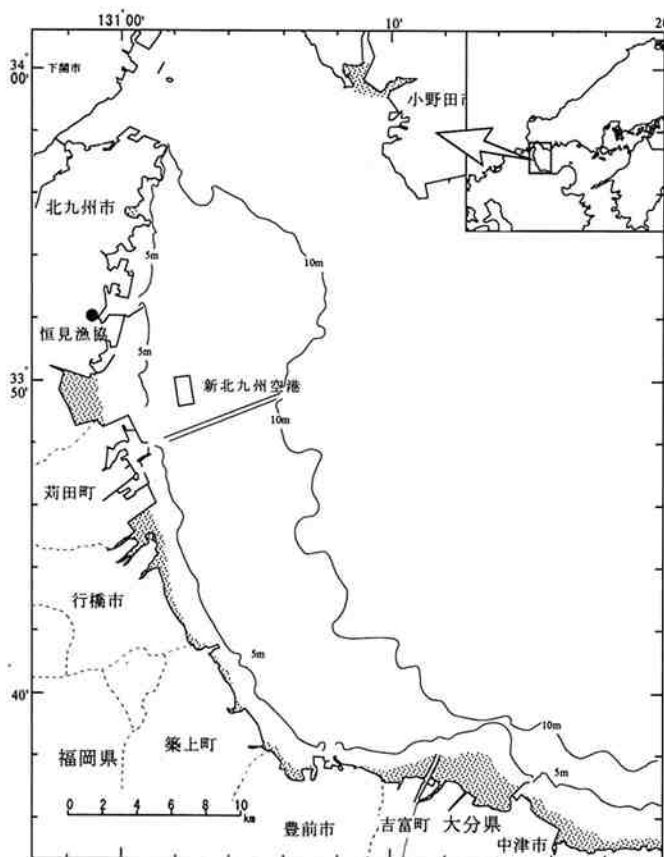


図1 地域の概要

3. 研究グループの組織と運営

豊前海区には13の漁協があり、うち8漁協（柄杓田、恒見、曾根、養島、沓尾、稲童、豊築、吉富）に青壮年部が組織されており、計100名程度の若手が所属している。

恒見漁協青壮年部には11名の若手が所属し、ガザミの中間育成や放流事業への参加や、漁場クリーンアップ活動等に積極的に参加している。

4. 研究・実践活動課題選定の動機

先に述べたように、豊前海では甲殻類が非常に重要な魚種であるため、私たちは普段から稚エビ・稚ガニの放流事業や体長制限の遵守を通じ、資源の維持・増大に努めている。

ガザミについては栽培漁業の優等生で、昭和52年に豊前海全域で稚ガニ放流を開始して

から、目立って漁獲されるようになった。このため、ガザミは漁業者の放流事業への関心も非常に高く、近年では毎年80万尾ほどの稚ガニを放流したり、全甲幅長13cm未満の小型個体の再放流活動を行っている。その成果で近年では年間およそ200~400トンもの水揚げがあり、全国有数のガザミ生産地となっている(図2)。

しかしながら、ガザミは年ごとの好・不漁の差が大きく、いかにして高い水準で安定した漁獲を維持するかが課題となっていた。

もちろん、エビやカニなどの甲殻類は、生育環境の影響を受けやすく、漁獲の安定が困難なのは分かっているが、何もしなければこの課題は解決しない。

そこで、何か出来ることはないかと意見を集めてみると、皆が共通して「豊前海では6月に入ると卵を抱いた雌ガニが数多く漁獲されるが、これを保護して再び海で卵を産ませることが出来ればカニが増えるのでは」といった気持ちを強く持っていることが分かった。

これは、漁業種類によらず皆が平等に取り組むことが出来るという活動趣旨にもあったため、さっそく青壮年部で「抱卵ガザミの保護活動」に取り組むこととした。

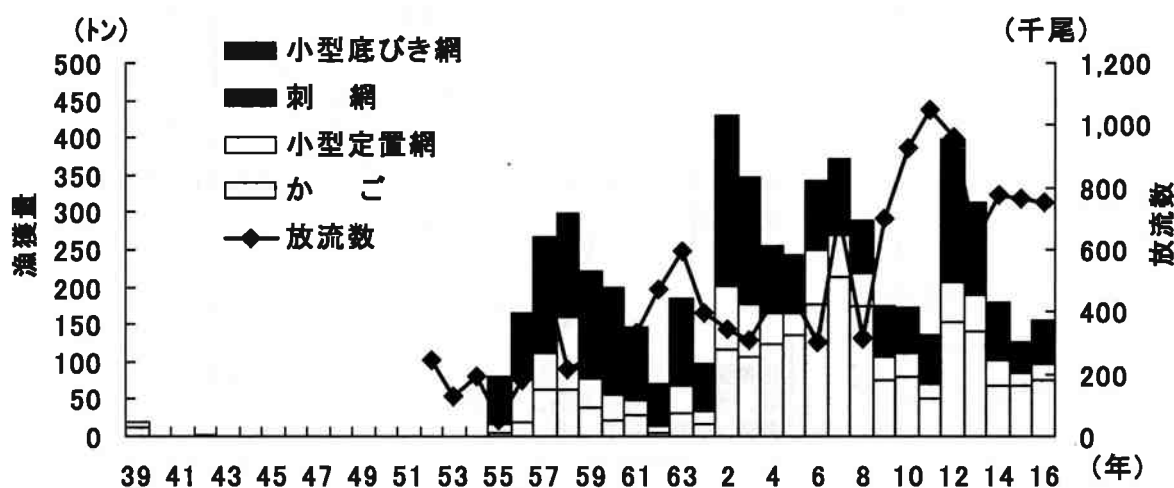


図2 ガザミ漁獲量と種苗放流数の推移

5. 研究・実践活動状況及び成果

(1) 計画策定までの経緯

調べてみると、瀬戸内海の各地では既に「抱卵ガザミの保護活動」を実施していることが分かった。そこでまず、平成12年9月に兵庫県の「ガザミ増やそう会」を視察し、方法等について学んだところ、抱卵ガザミが産卵期間中には脱皮しない性質を利用して、甲羅にマジックで「トルナ」と記して放流するという簡単なものだった。

ところが、いざ自分たちの手でやろうとなると、保護確認の方法や予算の確保等、様々な取り決めや準備が必要であり、その調整に多大な労力を費やすこととなった。また、平成12年はガザミが豊漁であったこともあり、いつしかガザミ保護への危機感も薄れ、結果的には実現に至らなかった。

そうしているうちに、ガザミの漁獲量はだんだんと減少していき、平成15年には12年の3分の1程度の不漁年となったため、再び各地で抱卵ガザミ保護が話題となった。

今度はさすがにガザミが捕れない現実があることから、私たち青壮年部の危機感は強く、平成16年度の事業実現に向けて皆が一丸となって取り組むこととなった。

(2) 「抱卵ガザミの保護活動」計画の策定

いよいよ自分たちで「抱卵ガザミの保護」活動に取り組むようになったが、前回の取り組み時に調整が困難であった①抱卵ガザミの尾数確認については漁協職員に協力をお願いすることや、②予算の確保については、全漁業者からの買い取りを行うことで、(財)福岡県豊前海漁業振興基金の助成をお願いすることとした。

そうして漁協・組合長会・基金に今回の取り組みを説明し、協力をお願いしたところ、いずれも「豊前海の漁業者が一丸となって行う素晴らしい取り組みだ。」と高く評価してもらい、快く協力を承諾して頂くことが出来た。

その後、内部で計画について繰り返し協議した結果、最終的に計画の概要は図3の通りとなった。

①ガザミが漁獲され始める時期は地区ごとに異なるので、北部、中部、南部の地区割りをを行い、あらかじめ目標尾数を割り振ることで、漁獲時期のずれの調整を行う。

②保護手法は、甲羅の大きさ13cm以上の抱卵ガザミを買い取り、放流を行う一般的な方法とする。

③買い取り金額については、確認作業の簡便化を図るためガザミの大きさによらず同額とし、平均サイズ(約16cm)価格の半値以下の1尾あたり500円とする。

④抱卵ガザミ確認者は漁協職員にお願いし、確認者は漁獲者とともに大きさ測定と甲羅へのトルナ文字の書き込みを行い、台帳へ記録する(図4~5)。

⑤漁獲者は作業後、責任を持って適地へ放流する(図6)。

⑥確認者は責任を持って台帳を管理し、買い取り状況を随時事務局へ報告する。

⑦各地区で目標尾数に達した場合は、買い取りを終了する。

⑧漁業者は、再捕禁止文字の入ったガザミを再漁獲した際には必ず再放流を行う。

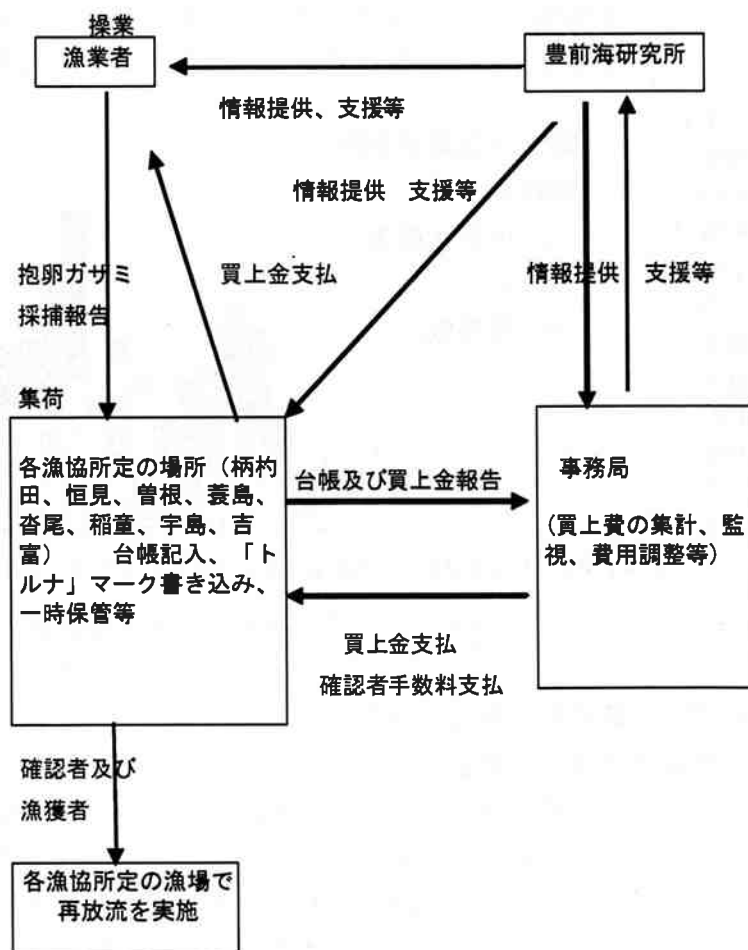


図3 活動計画概要フロー図

(3) 保護活動の実践

様々な事前準備ののち、活動は平成16年5月15日から予定通りに開始されたが、当初より次々と抱卵ガザミが持ち込まれ、目標の2,000尾の再放流は、終了日として設定した9月30日を待たずして、7月中旬には早々と達成することが出来た。

一般的にガザミは3回に分けて卵を産み、1回の産卵で約200万個の卵を放出するといわれており、それによるとこの活動により約120億個の卵が守られたことになった。

私には、実際にその中でどれくらいの数が親ガニとなって再び漁獲されるのかは分からないが、こういった活動を今後も継続していくことで、私たちの子供が大きくなる頃になっても、ずっとガザミの豊かな素晴らしい海が守られていくことを強く確信している。

また、今回すべての漁業者が取り組んだことで、私たち漁業者全体の資源管理意識をいっそう高める面においても、十分に意義のある活動であったと思う。

意識高揚の1つの表れとして、活動の期間中には地域の魚市場に抱卵ガザミが全く持ち込まれなかったことがあげられる。今回、私たちはこの活動を行う前に、様々な機会を見つけては組合員に活動への理解・協力を求め、魚市場へは持ち込み自粛ビラの掲示をお願いしていた(図7)。しかし、抱卵ガザミは魚市場では倍値以上で売れるため、持ち込みはやむなしと思っていたが、実際に魚市場を見渡してみても抱卵ガザミは見あたらず、これは私たちの活動が高く評価された証しだと思い、とてもうれしい気持ちになった。

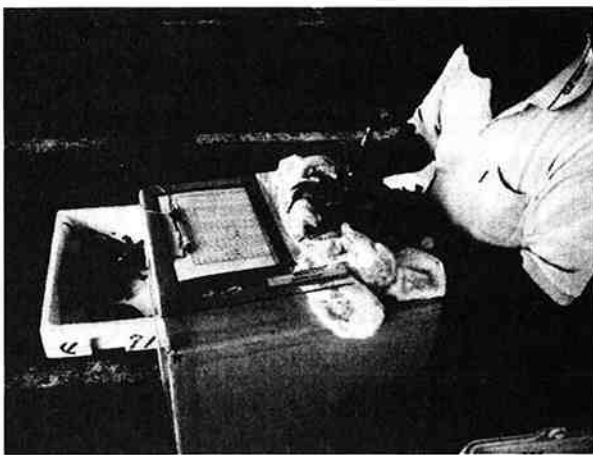


図4 抱卵ガザミの確認作業



図5 「トルナ」マークの記入



図6 抱卵ガザミの放流作業

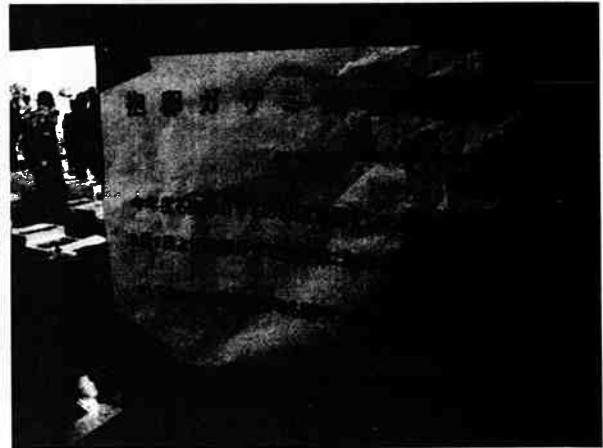


図7 魚市場への掲示ビラ

6. 波及効果

平成16年度の私たちの活動は、ガザミ資源の維持・増大に寄与しただけでなく、漁業者全体の資源管理意識を高めるうえで、素晴らしい成果をあげることができた。

また、ガザミの漁獲に関しても、翌16年度からガザミがよく獲れるようになったという話を頻繁に耳にするようになった。その結果、青壮年部員以外の漁業者からも活動規模の拡大を望む声が強く出されたため、平成17年度以降は目標尾数を3,000尾と増やして、保護活動に取り組んでいるところである。

さらに、今回の活動は周辺市町村からも高い評価を頂くことができ、青壮年とは別に北九州市を始めとして市町村単位で取り組む所も増えた。その助成分を含めると現在では豊前海全体で年間約7,500尾の抱卵ガザミの保護、卵に換算してこれまでの3年間の活動で約1,120億個の保護を行うまでに波及している。

7. 今後の課題や計画と問題点

このように豊前海のガザミは全国でも有数の漁獲を誇っているが、一般の人にはあまり知られておらず、「豊前海産のガザミ」が「他地域での特産品」として消費される実態も見受けられる。

このため、平成9年度にはガザミのネーミングを広く公募し、その中から「豊前本ガニ」との命名を行い、一般消費者への広報・宣伝活動を実施し、知名度の向上に努めてきた(図8)。同時に、ガザミは脱皮直後は身入りが悪い「ヤワラ」の状態となり、品質のばらつきが激しいので、「豊前本ガニ」の品質を統一するために、畜養技術の開発にも取り組んできた。

しかしながら、取り組み直後にガザミ不漁年が発生したことや、台風による畜養施設の破損がみられたこと等の理由により、十分な成果が得られているとはいえない。

他の水産物の漁獲が振るわない今日では、ガザミは豊前海の漁業者にとって以前にも増して重要な資源となっている。

今後の展開としては、今回の「抱卵ガザミの保護」活動などを継続実施して、資源の維持・増大に努めるとともに、「豊前本ガニ」ブランドを確立するために、消費者への広報・宣伝活動の強化や、品質を統一するための畜養技術の開発に取り組む必要があるのではないかと考えている。

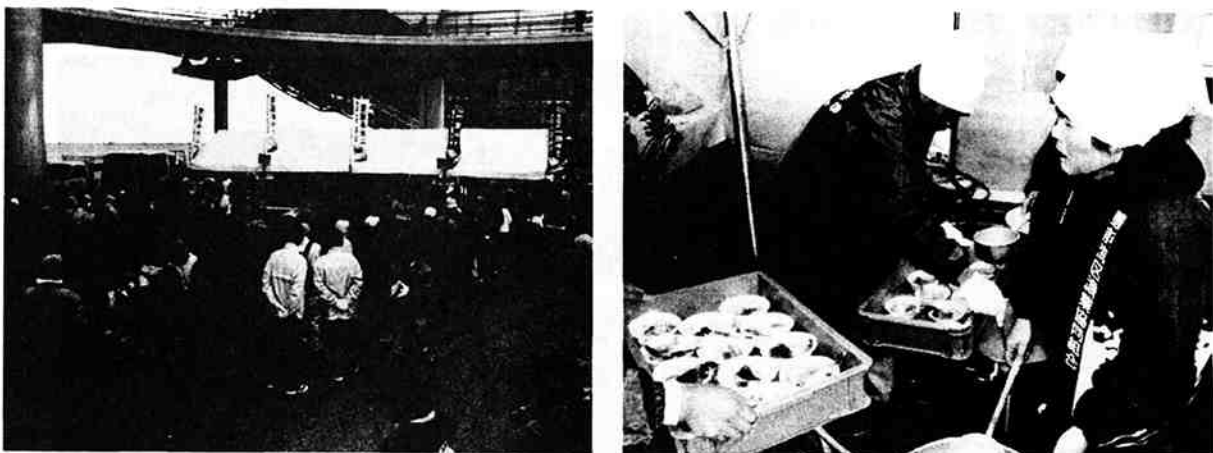


図8 「豊前本ガニ」販売・促進キャンペーン